完全対策講座 漢文

このPDFは、製品版の冒頭5ページを抜粋した
無料の試し読みサンプルです。目次・本文の書き方・
問題の出し方を確認してから、購入をご検討ください。

購入先

・黒田塾 教材プラン（科目別・セット価格、LINEで注文）
https://kurodaschool.jp/materials/
・BOOTHショップ「東大黒田塾」（ダウンロード販売）
https://kurodajuku.booth.pm/
・科目選びの相談（無料）
https://kurodaschool.jp/contact/

※ サンプルは製品版の一部です。収録範囲・分量の全体は
各販売ページでご確認ください。
※ 本サンプルは個人の学習用です。第三者への配布・転載・
転売・共有は禁止します。
※ 購入や読了による合格・得点を保証するものではありません。

KURODA JUKU

高校漢文

なぜと流れで読む

初学者から、根拠を書ける受験生へ

試し読みサンプル

語順から理解する。

番号の空欄で思い出す。

初見の文章で、理由を説明する。

本書の構成

56単元 / 419問と直後の解説 / 総合読解14題
番号付き穴埋め74枚 / 重要語160語 / 句法72項目

黒田塾　実践テキスト

TeX 改訂版・2026年10月30日

学習範囲：高校「言語文化」「古典探究」の漢文と大学入試の読解・記述

本書の使い方

理解したつもりを、説明できる力へ

最初から漢文の用語を知っている必要はありません。単元00で主語・述語・修飾を確かめ、語順、句法、文章の流れへ進みます。なぜそう読むかを一度説明し、次に思い出し、最後に初めて読む文章へ使う、という順番です。

一単元の進め方

① 説明を読み、例文で誰が何をするかを言う。
② 穴埋めプリントの下段を隠し、一文全体を再現する。
③ 各問の解説を隠して解く。答えた直後、すぐ下の解説で根拠を確かめる。
④ 間違えた理由を、語彙・構造・主語・論理・答案のどれかに分けて一言で残す。

穴埋めは、空欄の語だけを当てる作業にしません。たとえば「不必」は必ずそうだという確実性を否定する、と前後の関係ごと口にします。答えを隠して意味のつながりを再現できれば、文章を読むときにも取り出しやすくなります。

学習段階	進め方	次へ進む目安
初めて学ぶ	00〜22を順に。49・50は04・34と行き来する。	短文の主語・述語・否定範囲を言える。
文として読む	23〜40で会話、論理、比喩、詩を読む。	指示語と省略を補い、根拠を原文に戻して示せる。
答案へつなぐ	41〜55、D1〜D4で精度を上げる。	訳・理由・要約・選択肢の違いに応じて答えを作れる。
初見で確かめる	S1〜S14。本文を読み、解説を隠して解く。	読み直しても根拠が一致し、時間内に答案をまとめられる。

復習は、当日、翌日、数日後を目安にします。できた箇所を長く眺め続けるより、間違えた箇所を何も見ずに説明し直します。学習に必要な時間には個人差があるため、何時間で必ず完成すると決めず、できる行動で進度を判断します。

試し読みサンプル

到達判定

「全部読んだ」から「初見で使える」へ

本書は、高校で扱う訓読・重要句法・語彙・漢詩・思想と文学の基礎を、入試の読解・記述へつなぎます。字の働きや文化背景は、本文を読み、根拠を説明するために必要な範囲で扱います。昔の発音の復元、原典の版ごとの異同、専門的な学説の比較は学習対象にしません。出典や設問形式は学校・大学ごとに異なるため、本書の後は志望校の初見の過去問で到達を確かめます。

できること	主な対応単元
返り点・書き下し・送り仮名	00〜04、34、36、41、49・50・54
助字・再読文字・否定・疑問反語	06〜14、18、42〜44、46、51
使役・受身・可能・比較・条件・限定	15〜22、35、45
会話・指示語・主語・比喩・因果	05、23〜27、30〜32、35、38〜40、53・55
漢詩・思想・文学文化・日本漢文	27〜29、37〜39、52、S8・S9・S11
選択肢・複数資料・記述・総合読解	30〜32、40、47・48、S1〜S14

本書での修了目安

穴埋め：日を空けても、語を入れて文の意味を説明できる。
短文：語順と句法を手掛かりに、主語と否定の範囲を保って訳せる。
総合：初見の本文で、主語・指示内容・対比・理由を原文から示せる。
記述：設問が求める条件を満たし、本文にない断定を足さず、指定字数に収められる。

総合演習には採点の観点を付けています。目安として各題で配点の8割以上を取り、失点の根拠を説明し直せることを確認してください。これは本書の復習基準であり、大学の合格点を示すものではありません。最後は、志望校の時間配分と採点要求に合わせて過去問を解きます。

本文中の「作例」は、構造や論理を練習するために作成した文です。古典の抜粋は出典を明示し、訳・解説・設問は本書のために作成しました。訓読に複数の慣用がある場合は、本書の指定・訓点・設問の条件に従ってください。

段階別の到達確認

どこへ戻るかを、答案から決める

初回に正解しただけでは、使える知識になったかはまだわかりません。各段階の指定問題を、解説を隠して解きます。根拠を言えなかったものは、正解していても復習対象にします。数日空けて再度解き、最後は未読の総合問題で確かめます。

段階と確認問題	通過の目安	止まったときに戻る場所
① 語順と語尾：03-05、06-04、49-02	読む順を示し、所・未・ずの意味を落とさず書ける。	02〜08、49・50。読めない語尾は古典語の接続を確認。
② 句法を混ぜる：D1〜D4	解説を見ず、何を否定し、誰が行い、どの範囲を限るか説明できる。	08〜22、42〜46。訳の違いを一語ずつ根拠へ戻す。
③ 一文を長くする：35-05、54-02、55-05	主語を入れ替えず、内側の文を目的語のまとまりとして読める。	05〜07、35・53〜55。先に動作主を別々に書く。
④ 文章と記述：S1・S5・S8・S12	採点の各要素を満たす。設問の箇所だけでなく前後も根拠に使える。	23〜40、47・48。S1・S8・S12の一文ずつの照合も使う。
⑤ 未読の批評論説：S13・S14	本文の声を区別し、反論・仮定・限定を保って指定字数で説明できる。	30・31・40・45・48。正解を写す前に、足りなかった根拠を探す。

採点の方法

① まず自分の答案を残す。② 直後の解説・採点の観点と対応する語句に線を引く。③ 意味が同じ言い換えは認める。④ 主語・否定・理由が逆になった場合は、その要素を正解と数えない。⑤ 解説を閉じ、同じ根拠から自力で答え直す。

総合読解の8割という目安は、この教材内で戻り先を決めるための基準です。志望校への対応は、未見の過去問を制限時間内で解き、必要なら学校や塾で記述答案を確認して判断します。本書の同じ問題を覚えて解けたことと、初見に対応できたことを分けて記録してください。

単元案内

必要な説明とプリントを引く

学習順の基本は00→01→…→48。補習49〜55は必要に応じて参照し、総合読解の前に53〜55で一文から文章へつなぎます。ページ番号をクリックすると該当ページへ移動します。

単元	内容	説明	穴埋め	演習
00	主語・述語・活用を、例からつかむ	9	11	12
01	「我読書」は、なぜ「我、書を読む」か	13	15	16
02	「不知」は、知らない内容から読む	17	19	20
03	長く戻るときも、まとまりは同じ	21	23	24
04	書き下しは、まだ現代語訳ではない	25	27	28
05	先に「文の骨」を見つける	30	32	33
06	一字を訳す前に、何をまとめるかを見る	34	36	37
07	小さな字は、語と語の関係を示す	39	41	42
08	「まだ」と「ない」を、一字から読む	43	45	46
09	「必ず来ない」と「来るとは限らない」	48	50	51
10	「読まない人がいない」を、内側からほどく	53	55	56
11	同じ「しない」でも、話す目的が違う	58	60	61
12	質問の形なのに、答えを求めていない	63	65	66
13	「うれしくないか」は、うれしいということ	67	69	70
14	「何を」「何で」「どう扱う」を分ける	72	74	75
15	「王使臣行」で、行くのは誰か	76	78	79
16	主語は、動作を受ける側にもなる	81	83	84
17	「できる」と「する理由がある」を分ける	85	87	88
18	行動の前に、時間と判断を加える	89	91	92
19	優れているのは、AとBのどちらか	94	96	97
20	「もし雨なら」と「雨でも」は違う	99	101	102
21	「だけ」と「なおさら」で、範囲が動く	104	106	107
22	而を見たら、「しかし」と決めない	108	110	111
23	人物・発言・理由を、別々に追う	113	115	116
24	物の話が、なぜ人の話になるのか	118	120	121
25	「学ぶ」と「考える」を、なぜ並べるか	123	125	126

試し読みサンプル